

2023年5月25日(木)

老球の細道732号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トスティン・ロイブル」⑭

会津バスケットボール協会 室井 富仁

我が家の本棚に『メダルと恋と秘密警察—ビットが明かす銀盤人生』(文藝春秋社)がある。旧東ドイツのフィギュアスケート選手で1984年サラエボ冬季五輪、1988年カルガリ五輪で女子シングル2大会連続金メダルを獲得したカタリーナ・ビット選手の所謂自叙伝である。超美人スケーターであったので私は世の中の流れに従い大ファンであった。私と同じ高齢者世代で心の4大生活習慣病(見え・意地・プライド・嫉妬)を患いがちなお爺様たちは、当時皆憧れた世界のトップアスリートであろう(残念ながら現在は御婆様)。

この本を読んだ時は、まだ東西ドイツの分断の時代であった。だから彼女が選手生活を過ごした旧東ドイツ「カール・マルクス・シュタット」という都市が、これから行くトスティン氏の住む「ケムニッツ」と名称変更になったことはわからなかった。ケムニッツは他にも世界チャンピオンや金メダリストを多数輩出しているスポーツ都市であった。

【2004年 3月26日】

ルフトハンザ航空機で成田を飛び立ち12時間後にミュンヘンに到着。1972年ミュンヘン五輪に参加した日本男子バスケットボール選手団もこの空港に降りたのだと思いこみながら飛行機を乗り換えた。次はミュンヘンからドレスデンまで飛行機で約1時間。約8時間の時差があったが20時15分ようやくドレスデン空港に到着。当時時差ボケはあったが爺様ボケはまだ発症していなかった。

空港にはトスティン氏のお友達が迎えに来ており、車で超高速道路「アウトバーン」に乗り込んでケムニッツに向かった。約1時間後に到着。今回の宿舎「メルキュール」でトスティン氏と再会した。あいかわらずタフでエネルギッシュで、礼儀正しかった。

このホテルはケムニッツ市の中央に位置した近代的な高層ホテルであった。日本人スタッフが常駐しており、今回のツアー期間中、非常に快適に過ごせた。また、このホテルはトスティン氏の率いるプロチーム「ケムニッツ99ERS」のスポンサーでもあった。

夕食はトスティン氏御用達のレストランでウエルカムパーティーをしてもらった。三浦先生の通訳と私の単語並べのへらへら英語で楽しく夕食を摂ることができた。

【2004年 3月27日】

初日はドレスデン観光ツアー。トスティン氏のスタッフが車で引率、ガイドをしてくれた。ドレスデンはエルベ川の谷間に位置するドイツ連邦共和国ザクセン州の州都である。第2次世界大戦のドキュメンタリー番組を観ると必ず出てくるのが「ドレスデン爆撃」である。1945年2月13日から15日までの米国、英国軍からの無差別空襲は最も破壊的な爆撃として歴史に刻まれている。その時の傷跡がまだ残る「三位一体大聖堂」やドレスデン観光スポットの基本である「ドレスデン城」「ツインガー宮殿」などを見学して旧ザクセン王国の栄華に触れることができた。バスケットと歴史の名所、旧跡見学、極上の喜びである。(続)